

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成21年10月30日
【事業年度】	第43期（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）
【会社名】	株式会社エノモト
【英訳名】	ENOMOTO CO., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 榎本 正昭
【本店の所在の場所】	山梨県上野原市上野原8154番地19
【電話番号】	0554(62)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 山崎 宏行
【最寄りの連絡場所】	山梨県上野原市上野原8154番地19
【電話番号】	0554(62)5111(代表)
【事務連絡者氏名】	専務取締役管理本部長 山崎 宏行
【縦覧に供する場所】	株式会社ジャスダック証券取引所 (東京都中央区日本橋茅場町一丁目5番8号)

1【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

平成21年6月26日に提出いたしました第43期（自平成20年4月1日至平成21年3月31日）有価証券報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第2 事業の状況

7 財政状態及び経営成績の分析

3【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第2【事業の状況】

7【財政状態及び経営成績の分析】

（訂正前）

(1)（省略）

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高の状況

当連結会計年度における売上高の概況は、「1 業績等の概要（1）業績」のとおりであります。

～（省略）

継続企業の前提に関する重要事象等について

継続企業の前提に関する重要事象等についての分析・検討内容及び当該重要事象等を解消し、又は改善するための対応策については、「3 事業リスク 継続企業の前提に関する重要事象等」のとおりであります。

(3)～(5)（省略）

（訂正後）

(1)（省略）

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

売上高の状況

当連結会計年度における売上高の概況はコネクタ用部品向けをメインとする金メッキラインの量産体制の確立やより高いレベルでの品質管理体制の追及を通じて、更なる生産性の向上及び製造原価の低減に努めて参りましたが、主力製品であり、当連結会計年度大幅な売上増を見込んでおりました、携帯電話向けのマイクロピッチコネクタや、車載向けの表面実装（SMD）タイプのLED用部品の受注が第2四半期以降に減退したことに加え、主要ユーザーの一部が大幅な生産調整及び在庫調整を実施したことにより、第4四半期には急速に受注状況及び収益環境が悪化いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は211億9百万円（前年同期比24.2%減）となりました。

～（省略）

継続企業の前提に関する重要事象等について

当社グループは年度後半に起こった世界規模での金融危機以降、大幅な需要の減退及び急速な在庫調整によって当連結会計年度に売上高が著しく減少したことにより、重要な当期純損失を計上しております。

当社グループはこのような状況を改善する為に、中国事業の再構築を始め、事業本部制への移行、技術開発本部及び品質保証部の新たな設置等、激しく変化する事業環境に俊敏に対応が取れる体制を整えております。資金面では、将来の資金需要に対応する融資枠を設定しており、万全の体制を整えております。以上により、連結財務諸表及び財務諸表の注記として、継続企業の前提に関する注記は記載しておりません。

(3)～(5)（省略）